

令和7年
岩手県教育委員会定例会
9月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和7年9月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和7年9月16日（火）午後1時30分

第1 会期決定の件

第2 事務報告1 令和8年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜の概要について (学校教育室)

第3 事務報告2 第49回全国高等学校総合文化祭の結果について (学校教育室)

第4 事務報告3 今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）及び意見交換会（第1回）の開催結果（速報）について (学校教育室)

第5 事務報告4 令和7年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について (保健体育課)

閉会

事務報告 1

令和8年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜の概要について

令和8年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜の概要について、別紙のとおり報告します。

令和7年9月16日

令和8年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜の概要について

I 出願資格及び募集定員について

1 出願資格

(1) 次のア、イのいずれの条件も満たす児童で、岩手県立一関第一高等学校附属中学校の教育理念により岩手県立一関第一高等学校までの6年間の学校生活を強く希望し、入学予定者となった場合に入学を確約できる者とする。

【教育理念】

中高一貫教育のもと、特色ある教育活動を展開し、豊かな人間性と高い知性を合わせ持ち、社会の進歩と発展に貢献する次世代のリーダーを育成する。

ア 令和8年3月に小学校又は特別支援学校の小学部を卒業する見込みの者もしくは令和8年3月に義務教育学校前期課程を修了する見込みの者（以下、特別支援学校の小学部及び義務教育学校前期課程も含めて「小学校」という。）

イ 保護者とともに岩手県内に住所を有し、入学後も引き続き岩手県内の保護者の住所地から通学することが確実な者

(2) (1)のイを満たさない場合であっても、次の条件のいずれかを満たす場合は資格があるものとみなす。

ア 出願時には保護者とともに岩手県内に住所を有するが、特別な家庭の事情により、入学後は岩手県内に住所を有する三親等以内の成人の親族（以下「親族等」という。）の住所地から通学することが確実な者（例えば、保護者の遠方勤務又は長期出張に伴って、親族等に児童の保護を託す場合等）

イ 県外からの出願の場合（県外に住所を有する場合）

① 保護者の転勤や新居建築等に伴う一家転住の事情により、入学までに保護者とともに岩手県内に住所を異動し、入学後も引き続きその住所地から通学することが確実な者

② 特別な家庭の事情により、入学までに岩手県内に住所を有する親族等の住所地に異動し、入学後も引き続きその住所地から通学することが確実な者（例えば、保護者の遠方勤務又は長期出張に伴って、親族等に児童の保護を託す場合等）

ウ 海外からの出願の場合（海外に住所を有する場合）

① 海外に在住中で日本人学校を卒業見込みの者が出願をする場合は、「1 出願資格」(2)イに準ずるものとする。

② 外国の小学校を卒業見込みの者又は卒業した者で、平成25年4月2日から平成26年4月1日の間に生まれた者が出願をする場合は、「1 出願資格」(2)ウ①に準ずるものとする。

2 募集定員

70名 学級数2

II 入学者選抜に係る主な日程について

【資料1】

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 入学者選抜事務説明会(オンデマンドによる説明動画配信) | 令和7年 9月25日(木)～12月4日(木) |
| 2 入学願書の受付 | 11月26日(水)～12月4日(木) |
| 3 本検査 | 令和8年 1月17日(土) |
| 4 追検査 | 1月24日(土) |
| 5 合格発表 | 1月29日(木) |

Ⅲ 入学者選抜の方法及び検査日程について

1 入学者選抜検査

(1) 検査方法及び検査時間、配点

ア 適性検査Ⅰ・適性検査Ⅱ

思考力・判断力・表現力など、小学校の教育課程に基づく学習によって身に付けた総合的な力をみる。

- ① 検査時間 各35分間（35分間×2） ② 配点 各100点（100点×2）

イ 適性検査Ⅲ

【作文】 自分の考えや意見をまとめ、筋道を立てて的確に文章で表現する力などをみる。

- ① 検査時間 30分間 ② 配点 30点

【放送を聞いて答える問題】 話し手が伝えている内容を的確に捉える力をみるとともに、主体的に学びに向かう姿勢や、よりよい学校生活の実現に参画しようとする態度などをみる。

- ① 検査時間 15分間 ② 配点 30点

ウ 面接

自分の考えをわかりやすく伝えようとする表現力や、コミュニケーション能力などをみる。

- ① 検査時間・方法 20分間程度・集団面接 ② 配点 40点

(2) 適性検査における外国語（英語）に係る出題について

ア 令和6年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜から、適性検査において外国語（英語）の内容（読むこと、書くこと、聞くこと）を含めて出題している。

2 本検査日程

| 時 間 | 日 程 |
|-------------|--------------------|
| 8：40～ 9：10 | 受付（所定の部屋へ入室、着席） |
| 9：10～ 9：30 | 諸連絡、検査用紙配付 |
| 9：30～10：05 | 適性検査Ⅰ（35分間） |
| 10：05～10：30 | 休憩、検査用紙配付 |
| 10：30～11：05 | 適性検査Ⅱ（35分間） |
| 11：05～11：30 | 休憩、検査用紙配付 |
| 11：30～12：15 | 適性検査Ⅲ（45分間） |
| 12：15～13：15 | 昼食（各自持参）・休憩 |
| 13：15～13：30 | 控室集合、面接諸注意 |
| 13：30～15：00 | 面接 |
| 終了のめど 15：10 | 面接終了後、随時解散 |

1 対象者

次のア、イのいずれかに該当し、令和8年1月17日（土）に実施する本検査を受検できない者

ア 新型コロナウイルス感染症等により本検査を受検できない者

イ その他（真にやむを得ない事情により本検査を受検できない者） ※オンデマンド動画の説明において、月経随伴症状がその他に含まれる旨補足する。

2 期日

令和8年1月24日（土）【本検査の1週間後】

令和8年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る日程

| 期 日 | 事 項 | 送付者 | 送付先 |
|--|--|-----------|----------------------------|
| 11月14日(金)～ 11月25日(火) | 【入学志願特別事情具申書の提出】P2 「出願資格」(2)イの①・②のいずれかに該当するものが 出願を希望する場合県立中学校(TEL0191-23-4411)へあ らかじめ連絡の上、次の書類を提出すること <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 提出書類 1 入学志願特別事情具申書(様式1) 2 具申書提出者用返信用封筒(簡易書留、460円分 の切手貼付) </div> | 該当 保護者 | 中学校長 |
| 入学志願特別事 情具申書提出後 | 【入学志願許可書(様式2)の送付】P2 | 中学校長 | 該当 保護者 |
| 11月26日(水)～ 12月4日(木) ※期間内に必着 または期間内 の消印がある もの | 【入学願書等の提出】P2 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 提出書類等 1 入学選考料納付書(県証紙2,200円分貼付) 2 入学願書(写真貼付) 3 受検票(写真貼付) 4 受検票送付用封筒(簡易書留、460円分の切手貼付) 5 選抜結果通知書送付用封筒(簡易書留、460円分の切手貼付) 6 入学志願許可書(該当者のみ) 7 海外在住状況証明書(該当者のみ) 8 入学選考料免除に係る必要書類(該当者のみ) </div> | 保護者 | 中学校長 |
| 12月17日(水) までに投函 | 【受検票の交付及び送付】P4 入学志願者一覧表の送付 | 中学校長 | 志願者 |
| 12月25日(木) 簡易書留 期日指定 | 【調査書の提出】P4 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 提出の流れ 1 保護者は、調査書の作成を小学校へ依頼する。 2 小学校長は、調査書を作成し、所定の封筒に入れ、 厳封して保護者に送付するか、又は手渡す。 3 保護者は、期日までに厳封された調査書を郵送によ り中学校長あて提出する。 </div> | 保護者 | 中学校長 |
| 1月17日(土) | 本検査 (適性検査Ⅰ・適性検査Ⅱ・適性検査Ⅲ・面接) | | |
| 1月24日(土) | 追検査 (適性検査Ⅰ・適性検査Ⅱ・適性検査Ⅲ・面接) | | |
| 1月29日(火) までに投函 | 【入学者選抜結果通知】P7 ★選抜された志願者は「入学予定候補者」となる。 | 中学校長 | 志願者 在籍小学校長 |
| 2月4日(水) ※受付時間 9時～12時 13時～15時 ※受付場所 一関第一高等 学校中会議室 | 【入学予定候補者の手続】P7 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 提出書類等 1 受検票 2 入学者選抜結果通知書(合格通知書) 3 入学確約書 </div> ★手続終了後、「入学予定者証明書」を交付する。 ★手続を終了した入学予定候補者は「入学予定者」となる | | |
| 2月4日(水)16時 までに提出 | 【就学先の届出】P8 ★手続き時に交付された「入学予定者証明書」を住所の存 する市町村教育委員会へ提出する。 ★以降、保護者の転勤等による辞退や資格を失う等による 取消がない限り、入学予定者は入学者となる。 | 保護者 | 住所の存 する市町 村教育委 員会 |

〈問い合わせ先〉

- 岩手県教育委員会事務局学校教育室 義務教育担当
郵便番号：020-8570 住所：岩手県盛岡市内丸10-1
電話番号：019-629-6137
- 岩手県立一関第一高等学校附属中学校
郵便番号：021-0894 住所：岩手県一関市磐井町9-1
電話番号：0191-23-4411

12 追検査

(1) 対象者

次のア～イのいずれかに該当し、1月17日（土）に実施する本検査を受検できない者

ア 新型コロナウイルス感染症等により本検査を受検できない者

イ その他（真にやむを得ない事情により本検査を受検できない者）

(2) 期日

令和8年1月24日（土）【本試験日の1週間後】

(3) 会場

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

(4) 受検の手続き

上記（1）ア～イにより本検査を欠席し、追検査の受検を志願する者は、「追検査受検願い」を県立中学校長に提出すること。

追検査の受検の手続きや日程等の詳細については、上記（1）ア～イが発生した時点で下記相談先まで連絡した際にお知らせする。

相談先 岩手県立一関第一高等学校附属中学校

電話番号 0191-23-4411

(5) 追検査方法

本検査と同様に実施する。

ただし、適性検査Ⅲの内容は作文のみとし、面接は個人面接で行う。

なお、追検査の問題、検査時間、配点については非公開とする。

(6) 選抜方法

適性検査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、面接の成績で総合的に判断する。

本検査を受検した者と追検査を受検した者を一括して選抜する。

事務報告 2

第49回全国高等学校総合文化祭の結果について

本年度、香川県で開催された全国高等学校総合文化祭の結果について報告します。

令和7年9月16日

第49回全国高等学校総合文化祭の結果について

- 1 会 期 令和7年7月26日（土）～7月31日（木）
- 2 会 場 地 香川県
- 3 参 加 数 18部門、364名（令和6年度 18部門、338名）
- 4 成 績 3団体、2個人入賞（令和6年度 3団体、4個人入賞）
- 5 入賞一覧

| No | 部門 | 賞 | 学校名 | 受賞者名 |
|----|-------------|------------|--------|--------|
| 1 | 日本音楽 | 優秀賞・文化庁長官賞 | 盛岡第二高校 | 箏曲部 |
| 2 | 自然科学・ポスター発表 | 優秀賞・文化庁長官賞 | 盛岡第一高校 | 生物部 |
| 3 | 将棋・男子団体 | 準優勝・文化庁長官賞 | 岩手高校 | 囲碁・将棋部 |
| 4 | 写真 | 優秀賞・朝日新聞社賞 | 花巻北高校 | 林崎 莉乃 |
| 5 | 書道 | 特別賞 | 盛岡第四高校 | 小川口 朋花 |

事務報告 3

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）及び意見交換会（第1回）の開催結果（速報）について

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）及び意見交換会（第1回）の開催結果（速報）について、別紙のとおり報告いたします。

令和7年9月16日

I 地域検討会議（第2回）開催結果

1 内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」(当初案)についての概要説明
 (2) 「第3期県立高等学校再編計画」(当初案)についての意見交換

2 出席者

| 構成 | 出席者 | | |
|---------|-------------------------------|-------------------------------------|------------------|
| 市町村推薦者等 | ① 市町村長(代理可) ④ 市町村中学校PTA関係者 | ② 市町村教育委員会教育長(代理可) ⑤ 各地区中学校長会代表者 | ③ 市町村産業関係者(2名以内) |
| オブザーバー | ① 各地区選出の県議会議員 ② 各地区内所在の県立学校長 | | |

3 出席者数等

| 地区名 | 地区内の市町村名 | 実施期日 | 会場 | 出席者数 | | | | |
|---------|------------------------|-----------|--------------------|------|-------|-------|---------|-----|
| | | | | 地区代表 | 県議会議員 | 地区校長等 | 傍聴者(報道) | 地区計 |
| 盛岡(盛岡①) | 盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町 | 令和7年8月28日 | サンセール盛岡 | 18 | 12 | 16 | 6 | 52 |
| 盛岡(盛岡②) | 八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町 | 令和7年8月20日 | サンセール盛岡 | 16 | 6 | 6 | 7 | 35 |
| 中部 | 花巻市、北上市、遠野市、西和賀町 | 令和7年8月21日 | 東和総合福祉センター | 18 | 6 | 12 | 13 | 49 |
| 県南 | 奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市 | 令和7年8月26日 | 奥州市役所 江刺総合支所 | 17 | 5 | 15 | 13 | 50 |
| 沿岸南部 | 陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町 | 令和7年8月29日 | 陸前高田市 コミュニティホール | 22 | 3 | 8 | 10 | 43 |
| 宮古 | 宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村 | 令和7年8月21日 | 宮古地区 合同庁舎 | 19 | 0 | 7 | 11 | 37 |
| 県北(県北①) | 久慈市、洋野町、野田村、普代村 | 令和7年8月20日 | 久慈地区 合同庁舎 | 17 | 3 | 5 | 5 | 30 |
| 県北(県北②) | 二戸市、一戸町、軽米町、九戸村 | 令和7年8月22日 | 二戸地区 合同庁舎 | 13 | 1 | 5 | 10 | 29 |
| 計 | | | | 140 | 36 | 74 | 75 | 325 |

4 主な発言内容

| 地区名 | 発言内容（要旨） |
|-----|---|
| 盛岡① | <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡工業の校舎移転については、1か所で学びが完結するような配慮をお願いしたい。（行政） ・職業教育のセンター・スクールを位置付けるとのことであるが、盛岡農業や盛岡工業でも定員を満たしていない学科もあることから、地域の産業のニーズを把握したうえで、地元企業が求める人材の育成に努めてもらいたい。（行政） ・1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し地域校を位置付けたことに感謝している。（行政） ・少子化等が進む中、盛岡市内への入学者の集中を緩和する取組を進め、特に、私立高校との募集定員の調整を行う必要があるのではないかと。（行政） ・高校を核とした地方創生が掲げられている中、再編計画は生徒数を数字でしか見ておらず、人口減少にあわせた学校の統廃合計画としか感じられない。（行政） ・地域経済を支える人材確保が重要であり、特に、地域産業の担い手確保が喫緊の課題である。高校教育でも産業界と連携した取組を進める必要がある。（行政） |
| 盛岡② | <ul style="list-style-type: none"> ・平館の家政科学科について、地元中学生へのPRやいわて留学への取組を進め、公営塾や寮の整備も検討している。募集停止となれば、関係者の意欲が損なわれる懸念があり、猶予期間の延長を求める。（行政） ・人口減少の中で、将来の岩手を担う人材育成に向けた強いメッセージが必要ではないか。数合わせではなく、教育の本質を捉えた議論が求められる。（行政） ・生徒数の減少が進む中、県内全体及び各地区のバランスを考慮した高校配置を求める。子どもたちが夢や希望を持ち、将来の進路を自由に選択できるよう、普通科・専門学科をバランスよく配置してほしい。（行政） ・今回の再編計画については、地域の教育の在り方を踏まえた納得解として進めてほしい。（教育） ・「いわて留学」における県外からの受け入れ枠を拡大し、市町村の努力に応じて柔軟に対応できる仕組みにしてほしい。（教育） ・通学支援や寮・下宿の整備についても、生徒本人や保護者の不安を軽減するため、補助制度の充実を検討してほしい。（教育） |
| 中部 | <ul style="list-style-type: none"> ・大迫については、小規模校を選択して市内や県外から生徒が入学している特色のある学校であり、令和8年度に募集停止しなかったことについて評価する。今後も学校の必要性を考慮していただきたい。（行政） ・花北青雲の情報工学科については、県内、市内に就職する生徒も多く、企業の求める人材を育成するという観点からも非常に重要である。（行政） ・併設型中高一貫教育校については、義務教育に与える影響は少ないと考えており、医学部への進学者数を増やす課題を解消するためにも、設置を進める必要がある。（行政） ・黒沢尻工業の半導体関連の学科改編は、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。（行政） ・工業系学科への充足率が低下する中で、高校の特色化・魅力化の取組が重要と認識しており、高校の進路選択の取組として、地元教育委員会や建設業協会と連携することによるキャリアプランの強化が必要ではないか。（行政） ・社会状況を鑑みると計画の考え方は必然という思いがあるが、遠野緑峰は生徒数以上に大事な高校で、地域の活動や海外との交流活動を評価しており、その精神を引き継いでいきたい。（行政） ・黒沢尻工業は、センター・スクールとしてこれから期待されていくことと思うが、半導体関連学科の設置等の評価を踏まえて、情報工学科の募集停止を検討してもいいのではないかと。（教育） |

| | |
|-------------|---|
| <p>県南</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・岩谷堂の2系列の廃止案については、地域産業の発展に対応した教育内容の進化が必要であり、両系列の教育は人材需要に直結しており配慮が求められる。(行政) ・杜陵奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。移転により一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。(教育) ・金ケ崎の直近の入学者数は20名程度とはなっているもの、募集停止の基準には達していない。今後、教育の場をどのような形で提供することが良いのか検討しなくてはならない。(行政) ・金ケ崎の募集停止については、他の同様の条件の高校との整合性に疑問があり、状況を見守る期間を設けてもよいのではないかと感じる。(教育) ・地域校の位置付けは評価できる。地元自治体や住民と連携して教育活動や入学者確保に取り組むことが重要である。(行政) ・学級減などの判断は、令和8年度からの新計画からの地域の取り組みや結果を踏まえて行うべき。令和8・9年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。(行政) ・進学の数値をもとに固有名詞を出すと、地域にマイナスのイメージを与えてしまう。ルールを設けること自体はやむを得ないが、結果数値に基づいた記載をしてほしい。(行政) ・一関第一の普通科から探究科への学科改編については、教科横断的な学びや県政課題に対応した人材育成につながると期待している。(教育) ・大東の情報ビジネス科について、生徒数減少に伴う募集停止の基準を設けることは理解できるが、大東は地域とのつながりが強く、基準を今年度から適用するのは受け入れがたい。次年度からの適用とするよう求めたい。(教育) |
| <p>沿岸南部</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水産や調理師の学科は必要であり、我々の復興に係る取組が根本から崩れてしまう。現在の状況だけで判断するのではなく、復興を見据えた検討を行っていただきたい。(行政) ・高田では、震災以降、国際交流や大学交流等を実施しており魅力化を図りたいと考えているので、今後検討していただきたい。(行政) ・大船渡東の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。新たな取組をしていくことにより、現状の規模は維持できると考えているところ。(行政) ・集約するにしてもなぜ宮古なのかという思いもある。学びの環境を整えるための様々な手立てを打っていききたい。(行政) ・地域における高校の存在は、教育分野のみではなく、様々な分野に影響する。横断的に考えながら検討していく必要があるのではないか。(行政) ・沿岸部にも医系コースを設置し、医学部に進学できるという選択肢を作っていただきたい。医系コースの設置は、学力の底上げや人口減対策にも繋がる。(行政) ・釜石商工は、地域の企業から即戦力となる人材の育成を求められており、地域に求められる学科をバランスよく設置していただきたい。(行政) ・大槌は町にとって欠かせない学校であり、地方創生の核となる存在である。町でも複数のコーディネーターを配置し、地域を挙げて探究学習を支援してきた。今後も専門的な人材の配置について協力をお願いしたい。(行政) ・気仙地区は普通科に加えて専門学科が充実していることから、他の地域に流出する割合が少ない地域であり、地元の高校で学んだ生徒が地元を支えてきた。学級減の必要性は理解するが、専門学科の学びを確保するため、例えば総合学科のコースとして学びを維持できないか検討していただきたい。(教育) |

| | |
|------------|--|
| <p>宮古</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水産、調理師養成施設の拠点と位置づけされ大いに評価している。（行政） ・宮古北の募集停止見込みについては、志願する子どもの受け皿という点を配慮いただきたい。（行政） ・1学年1学級校の募集停止基準について、もう少し柔軟い表現とする検討はできないか。（行政） ・宮古地区内の各校の募集定員数について、早急に見直しの検討をお願いしたい。（行政） ・山田は、地域の将来を担う人材を育成するためにも何としても存続させたい考えであり、これまでも様々な支援を行ってきた。（行政） ・水産の学び等の集約は賛成である。南北が長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。（PTA） ・計画全体に少子化対応の色が強く、多様化・多様性への視点がやや不足している印象がある。「多様性に基づく魅力化」の視点を強化し、計画の中でもそのボリュームを増やすことで、より希望を持てる内容になると考える。（教育） ・教育の機会の保障については、計画の中で十分にアプローチされていると感じている。一方で、教育の質の保証については、今後さらに具体的な言及があるとより良い計画になるのではないかと考えている。（教育） |
| <p>県北①</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・久慈翔北について、生徒数減少等の課題は理解しつつも、地域産業等を支える人材育成の場として、両系列の存続を強く求める。（行政） ・水産業が基幹産業であり、経済・文化・コミュニティの面でも不可欠な存在。地元での人材育成が重要であり、水産系列の停止は容認できない。（行政） ・宮古水産への集約案は、通学の困難さや保護者・生徒への負担増を招く可能性があり、進学の実選択肢を狭めることが危惧される。（行政） ・大野について、地域みらい留学の受け入れを継続予定であり、募集停止基準の適用について柔軟な検討を求める。（行政） ・久慈翔北の水産系列の選択停止については、地域ごとの漁業の特性を踏まえ、地元での教育が不可欠と考える。通学や寮生活に伴う負担が増すことから、経済的な不公平感を軽減する支援を求める。（行政） ・子どもの減少により再編の必要性は理解するが、地域に必要な専門高校もある。遠隔教育の活用により、現状維持や多様な選択肢の提供が可能ではないかと考える。（産業） |
| <p>県北②</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・福岡の1学級減について、大変残念であるが、少子化が進む中、高校再編の必要性については、概ね理解する。（行政） ・地域の子どもたちが地元高校に進学したいと思えるよう、地域の誇りであり県北の拠点校でもある福岡の教育環境の充実について、強くお願い申し上げる。（行政） ・軽米の学級減について、大変厳しく受けとめている。西和賀のように、入学志願者の増により学級増となった例もあることから、軽米町としても、何とか2学級に戻したいと考えている。（行政） ・今回の再編計画に示された軽米の学級減について、本日の説明では賛成できかねる。（教育） ・軽米の教育活動の充実と特色化、魅力化の一層の推進を図るために、2学級の維持も含め、その方策について、効果的な支援を強くお願いする。（教育） ・地域みらい留学については、地域活性化につなげたい。伊保内の存続は、地域の存続にも関わり、地域との協議を進めながら、丁寧に検討していただきたい。（行政） |

Ⅱ 意見交換会（第1回）開催結果

1 内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

2 対象者

地域住民

3 出席者数等

| 地区名 | 地区名の 市町村名 | 実施期日 | 会場 | 出席者数 | | | |
|-------------|----------------------------------|-----------|--------------------|------|-------|----|-----|
| | | | | 一般県民 | 県議会議員 | 報道 | 地区計 |
| 盛岡 | 盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町 | 令和7年8月26日 | 岩手県公会堂 | 19 | 0 | 2 | 21 |
| 中部 | 花巻市、北上市、遠野市、西和賀町 | 令和7年8月21日 | 東和総合福祉センター | 19 | 0 | 2 | 21 |
| 県南 | 奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市 | 令和7年8月25日 | 奥州市文化会館Zホール | 35 | 1 | 5 | 41 |
| 沿岸南部 | 陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町 | 令和7年8月28日 | 陸前高田市 コミュニティホール | 42 | 0 | 4 | 46 |
| 宮古 | 宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村 | 令和7年8月27日 | 宮古市民文化会館 | 15 | 0 | 2 | 17 |
| 県北 (県北①) | 久慈市、洋野町、野田村、普代村 | 令和7年8月19日 | 久慈地区合同庁舎 | 10 | 0 | 4 | 14 |
| 県北 (県北②) | 二戸市、一戸町、軽米町、九戸村 | 令和7年8月22日 | 二戸市シビックセンター | 21 | 0 | 2 | 23 |
| 計 | | | | 161 | 1 | 21 | 183 |

4 主な発言内容

| 地区名 | 発言内容（要旨） |
|-----|---|
| 盛岡 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在の教育委員会の予算は足りない、人材育成のために予算をしっかりと確保すべき。 ・定時制・通信制高校への単位制の導入スピード感を持って取り組んでいただきたい。 ・1学年1学級校の募集停止について、通学負担の増加を懸念している。 ・寮の整備を検討について、財政が厳しい中で実現が難しいのではないかと懸念がある。 ・各校の特色化、魅力化を進めるとあるが、今後、中学校卒業予定者数が大きく減少する中で、全ての高校で入学者が増えることは無いのではないかと懸念している。 ・各校の特色化、魅力化に係る教員の負担増が危惧され、授業等の教育に係る時間が削られることを懸念している。 ・平館は地域からの評価が高い。入学者数増の取組の成果が出るまで、募集停止は猶予をいただきたい。 ・平館の家政科学科の学びは、地元の人に支えられ地域と連携した学びを行っており、普通科の中に、家庭の学びをコースとして維持する考えがあってもよいのではないかと懸念している。 ・私立で特色ある取組を行っている中、無償化が始まることにより、小規模校の入学者がさらに減ることを危惧している。 ・平館の家政科学科を希望する生徒の学びを保障するためにも、令和9年度の募集停止について猶予をいただきたい。 |
| 中部 | <ul style="list-style-type: none"> ・大迫の募集停止の判断については、原則の取扱いのみならず、地域事情を考慮した柔軟な対応を強く要望する。 ・花北青雲の情報工学科の募集停止により黒沢尻工業への進路選択の流れができると、地元企業への就職者数が減少する可能性があるため、再編の見直しを要望する。 ・地元に残り、どう人生を楽しむかを考えた再編にしていきたい。 ・遠野の統合形態が実習移動型であれば、バスを購入した方がよいのではないかと懸念している。 ・進学校は別として、実業高校の募集定員を維持した方が、地域の実働や賑わいに資する社会人が地域に残るのではないかと懸念している。 ・地域に高校がなくなると過疎化が一気に進んでしまうという現状が全国的にも起きている。地域から学校がなくなれば、遠くの学校に通わざるを得ないこととなり、保護者の負担も増し、保障や補助が必要ではないかと懸念している。 |
| 県南 | <ul style="list-style-type: none"> ・杜陵奥州校の集約により、定時制の拠点を整備する方針に賛成であるが、定時制の夜間部は、21時頃に終了することから、歩道の拡充等、通学路の安全対策を講じる必要がある。 ・黒沢尻北や水沢の募集定員を減らす等、募集定員を地域全体で調整することも必要なのではないかと懸念している。 ・金ケ崎について、統合により選択肢が無くなることを危惧しており存続を要望する。 ・募集停止の基準について、地元自治体と相談し判断することも必要なのではないかと懸念している。 ・金ケ崎の募集停止について、賛成の気持ちと反対の気持ちが半々である。水沢の募集定員を減らすことで金ケ崎の入学者も増えるのではないかと懸念している。また、金ケ崎は水沢ではなく杜陵奥州校と統合することにより、空き校舎の有効活用にもなり、様々な活動も充実するのではないかと懸念している。 ・岩谷堂の農業及び工業系列の選択の募集停止について、系列を減らすことで総合学科としての意義がなくなるのではないかと懸念している。 ・今後、各学校の魅力化、特色化の取組を進めるとあるが、岩谷堂の系列を減らすことは、特色が薄れることになるのではないかと懸念している。私立が特色をアピールしている中、県立の魅力化、特色化の取組については小規模校に対して重点的に取り組んだ方がよいのではないかと懸念している。 ・大東について、地元からの入学者を増やす取組を進めたいと考えている。商業科の募集停止について猶予をいただきたい。 |

| | |
|------|--|
| 沿岸南部 | <ul style="list-style-type: none"> ・大船渡東の食物文化科の生徒は非常に優秀である。食物文化科の廃止で、そうした生徒がいなかったらと仮定した場合、学校が無くなることに繋がるのではと危惧している。 ・大船渡東の食物文化科について、当初案では、農芸科学科にコースとして維持するということであるが、強く存続を希望する。 ・普通高校の募集定員を減らし入試の競争力を上げることが必要ではないか。 ・大船渡東の食物文化科へは毎年 20 数名入学しているが、地元であってこそその前向きな進路選択であり、宮古へ入学する生徒はいないのではないかと。既存の学校を利用して将来の道を開くということを考えていただきたい。 ・大船渡市にはアマタケやさいと製菓という企業もあり、大船渡東の食物文化科の食に対する部分では強みの部分である。大船渡市にとっても大切な学科であることから再考をお願いしたい。 ・高田の海洋システム科について、水産の学びを宮古に集約しても、生徒や保護者の負担が増え、実際に通う生徒は少ないと思う。現在の校舎を活用するという意味でもの存続を希望する。 ・大船渡の募集定員を減らし、専門高校の学びをしっかりと残して地元で根差した人材の育成を行っていただきたい。 ・気仙地区は産業人材の育成をする学校があり、地元人材が定着する流れができています。そこにクレセントシティとのパイプを持った国際人材を育てる環境、或いは沿岸部にも医系コースを作り沿岸部からも医系人材が輩出できる環境を作ることを検討していただきたい。 |
| 宮古 | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校を抱えている市町村は、1 学級校の募集停止の基準をどうにかしてもらいたいと意見が出ている。インターネットなどを利用して様々な形で交流を持つなどして、社会適応力や集団適応力等を身につけることができるような状況は考えられないのか。 ・保護者の立場で考えた場合、通学支援や住環境の整備は非常に重要な要素である。寮であれば一定の安心感があるものの、下宿となると保護者の不安も大きい。 ・宮古北では、教育上特別な支援を必要とする多くの生徒に対し進路指導を含めて、丁寧に指導していただいている。募集停止となった場合、中学校現場としては、大変不安がある。 ・水産分野の学びの集約について、必要性を感じている。調理師養成施設について、調理師免許を有し指導資格を持った家庭科教員の配置が必要であることを理解したが、宮古水産に集約した場合、志願者が定員 40 名を超えることも想定される。 ・統廃合や集約は避けられない流れであることは理解しているが、それに伴うソフト面、特に寮や下宿費の補助などの経済的支援策が必要であり、生徒・保護者が安心して進路選択できる環境づくりが求められる。 ・宮古水産に集約された後は、地域の水産を支える人材を育成するためにも、各地域へ実習に出向くなどの取り組みが必要ではないかと考える。その際には、生徒の移動費などの経費も発生するため、実習支援や地域連携のための予算措置も併せて検討すべきである。 ・少子化により厳しい状況があることは理解しているが、宮古北の特色ある教育活動を継続するためにも存続させてほしい。 ・宮古水産への集約にあたっては、特色ある教育内容の充実が求められると思う。宮古市が下宿制度を導入した背景は、漁業の担い手の確保が目的にあったが、進路が漁師以外の選択肢となる生徒が多い。将来の進路に応じた多様な学びが選択できる学校を目指して欲しい。 ・後期計画期間中の方向性として示されている定時制課程と通信制課程の連携については、沿岸地域にも単位制で柔軟に授業が履修できる高校の設置が必要と考える。 ・下閉伊地区は経済的、地理的に通学が困難となる可能性がある地域であり、地元の高校にしか行かせられない家庭はある。地元で学び、地域で暮らしたいと願う子どもたちの育成が、地域産業を担う人材づくりにつながると思う。 |

| | |
|------------|--|
| <p>県北①</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・久慈翔北の家庭系列は地域に根差した系列であり、調理師免許取得者が地元で活躍している実態がある。検定と調理師免許は重みが異なるため、統合の影響が懸念される。 ・大野に入学したい生徒がいても、交通手段がなく進学を断念するケースがある。市町村の努力だけではバス路線の維持が困難であり、交通の課題が進学の障壁となっている。 ・「募集停止（括弧書き）」という表現では、今後の見通しが不透明であり、地域住民に不安を与えている。報道でも具体的な説明がなかったため、誤解や憶測が広がっている。その結果、募集停止になるなら大野高校は選ばないと考える生徒が出ることを懸念している。地域としては20人以上の志願者を確保し、存続を目指して取り組んでいる。 ・当初案に福祉・介護に関する記載が見られず、地域に根ざした活動として福祉・家庭系列の生徒も積極的に取り組んでいることを理解してほしい。 ・制服代が高額になることで、希望する高校への進学を断念する生徒もいる。統合はやむを得ないが、制服についてはお下がりや卒業生の制服のリユースを可能にしてほしい。 ・農業・林業・畜産など第一次産業分野の人材育成に、県としてより力を入れてほしい。再編計画では明確な記載がなく、今後の検討を求めたい。 ・寮・下宿の費用も過疎地域の家庭にとって大きな負担であり、経済的な不利が生じている。 ・いわて留学については、取り組んで初めて課題や効果が見えてくる面もあるため、教員の意識改革や研修などの支援も必要ではないか。 |
| <p>県北②</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・軽米の1学級減について、管理運営規則に基づく事であるが、連携型中高一貫教育の中で、今年度の町内の中学3年生は50人を超えており、全員が志望した場合入学できないことになると思う。 ・軽米の1学級減について、定員が40人となれば、連携型入試でほとんどの定員が埋まり、一般入試の定員が少なくなるので県外や他市町村からの志願者がいなくなる懸念がある。 ・連携型中高一貫教育の継続を検討する必要があるのではないかと。検討するのであれば、学級減はその結果を待つべきではないか。 ・北桜について、統合したばかりで学級減なのかと感じている。 ・県北地区の転出が超過している理由は、県教育委員会の魅力化の取組の結果である。魅力化を推進すると言っているが、ソフト面の支援だけで経済的支援がないのは無謀だと思われる。 ・生徒の学びに格差をつけることはあってはならない。近い将来、伊保内への入学者が20人以下になり、募集停止になる懸念があるが、高校は義務教育の延長で、どの子どもも高校までは最低減学べる体制を保障することを希望する。 ・二戸地区においては、普通高校1校、専門高校1校となるのは、もはや避けられず、現在の高校が疲弊する前に、一刻も早く拠点校づくりを進めるべきではないか。そのことにより、十分な教員を配置し、豊かな教育施設を整備することが、将来を見据えると大事なことはないか。学びの機会の保障より学びの質を保障することは大切なことはないか。 ・高校がなくなると地域が寂れると言われるが、地域の活性化は大人、行政の問題であり、大人の都合で、生徒の学びが阻害されることがあってはならない。 ・福岡の1学級減の案は残念であるが、昨今の入試状況を見ればやむを得ない。県が県北沿岸振興を推進するのであれば、拠点校は、県の子算で特別に教員を措置していただきたい。なお、その際は、福岡を先に拠点校に位置付けて、それに合った規模の施設整備になるような順序で進めていただきたい。 ・県立高校と私立高校が連携して募集定員を減らすことはできないのか。 |

Ⅲ その他（第3期県立高等学校再編計画（当初案）に関する出前説明会開催状況）

1 開催期間

令和7年8月25日（月）～9月12日（金） ※当初案に係るパブリック・コメントの一環として実施

2 要望団体数

9団体

3 開催状況

| | 開催日時 | 主催団体名 | 会場 |
|---|--------------------|--------------|-----------------|
| 1 | 令和7年9月3日（水）18:00～ | 洋野町立大野中学校PTA | 大野中学校体育館 |
| 2 | 令和7年9月4日（木）18:00～ | 軽米高校同窓会 | 軽米町文化交流センター |
| 3 | 令和7年9月5日（金）14:00～ | 広田湾漁業協同組合 | 広田湾漁業協同組合本所 |
| 4 | 令和7年9月8日（月）16:00～ | 大船渡東高校PTA | 大船渡東高校 |
| 5 | 令和7年9月10日（水）18:00～ | 金ヶ崎町 | 金ヶ崎町役場 |
| 6 | 令和7年9月11日（木）13:00～ | 平館高校同窓会 | 西根地区市民センター |
| 7 | 令和7年9月11日（木）18:00～ | 花北青雲高校同窓会 | 花北青雲高校 |
| 8 | 令和7年9月12日（金）15:30～ | 盛岡市立下橋中学校 | 下橋中学校会議室 |
| 9 | 令和7年9月12日（金）18:00～ | 山田町 | 山田町中央コミュニティセンター |

事務報告4

令和7年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について

本年度、中国ブロックを中心に開催された全国高等学校総合体育大会及び九州ブロックで開催された全国中学校体育大会の結果について報告します。

令和7年9月16日

令和7年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について

1 令和7年度全国高等学校総合体育大会

- (1) 会 期 令和7年7月23日（水）～8月20日（水）
- (2) 会 場 地 中国ブロック（広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県）、北海道、福島県、和歌山県
- (3) 参 加 数 30競技、選手577名（令和6年度 30競技、選手566名）
- (4) 成 績 11競技、17種目入賞（令和6年度 13競技、27種目入賞）
- (5) 入賞者一覧

| No | 順位 | 競技名 | 種目名 | 選手・学校名 |
|----|----|------------|--------------------|----------------------|
| 1 | 1位 | 陸上競技 | 男子800m | 菊池 晴太（盛岡第四3年） |
| 2 | 2位 | ホッケー | 男子 | 沼宮内 |
| 3 | 4位 | 陸上競技 | 男子5000m競歩 | 高橋 汰紅（黒沢尻工業3年） |
| 4 | 5位 | 陸上競技 | 男子棒高跳 | 高橋 叶海（盛岡市立3年） |
| 5 | | 陸上競技 | 男子八種競技 | 相馬 大翔（盛岡市立3年） |
| 6 | | レスリング | 男子92kg級 | 小川 大陽（宮古商工1年） |
| 7 | | ボクシング | 男子ミドル級 | 鳥谷部 侑希（黒沢尻工業2年） |
| 8 | | 卓球 | 男子ダブルス | 渡邊 峻・池田 皓翔（専修大学北上3年） |
| 9 | | 登山 | 女子団体 | 盛岡第一 |
| 10 | | ウエイトリフティング | 男子+102kg級クリーン&ジャーク | 川村 遥輝（盛岡工業3年） |
| 11 | | ソフトボール | 女子 | 花巻南 |
| 12 | 6位 | ウエイトリフティング | 男子+102kg級スナッチ | 川村 遥輝（盛岡工業3年） |
| 13 | | | 男子+102kg級トータル | |
| 14 | | ヨット | 女子コンバインド | 宮古 |
| 15 | 7位 | 陸上競技 | 男子5000m | 古川 陽樹（盛岡大学附属3年） |
| 16 | 8位 | 新体操 | 男子クラブ | 熊谷 祥（盛岡市立3年） |
| 17 | | 自転車競技 | 男子スクラッチ | 高橋 和士（紫波総合3年） |

2 令和7年度全国中学校体育大会

- (1) 会 期 令和7年8月17日（日）～8月25日（月）
- (2) 会 場 地 九州ブロック（宮崎県、佐賀県、長崎県、熊本県、福岡県、大分県、沖縄県）
- (3) 参 加 数 14競技、選手284名（令和6年度 13競技、選手201名）
- (4) 成 績 3競技 4種目入賞（令和6年度 3競技 4種目入賞）
- (5) 入賞者一覧

| No | 順位 | 競技名 | 種目名 | 選手・学校・チーム名 |
|----|----|--------|--------------|-------------------------|
| 1 | 4位 | 水泳（競泳） | 男子200m個人メドレー | 藤森 莉仁（一関中3年） |
| 2 | 5位 | 相撲 | 男子団体 | 寺田道場（地域クラブ活動：西根第一中、雫石中） |
| 3 | 6位 | 陸上競技 | 共通女子1500m | 小川 明鈴（滝沢中3年） |
| 4 | 7位 | 陸上競技 | 共通女子砲丸投 | 松田 夏輝（大宮中3年） |